

一般社団法人 教育システム情報学会

Japanese Society for
Information and Systems in Education

ニュース・レター No.201



発行日 2016年3月31日

発行所

一般社団法人
教育システム情報学会

発行者 仲林 清

〒599-8531

大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学 真嶋研究室

URL <http://www.jsise.org>

E-MAIL secretariat@jsise.org

2016 年度 JSiSE 全国大会(第 41 回)のご案内

開催日 : 2016 年 8 月 29 日(月)~31 日(水)

開催場所 : 帝京大学 宇都宮キャンパス

<http://www.jsise.org/taikai/2016/>

是非ご参加ください。次頁より大会の詳細を記載しております

●○○●○○●○○●○○◀ も く じ ▶●○○●○○●○○●○○●

2016 年度全国大会のご案内・・・・・・・・・・	1-3	学生研究発表会開催報告・・・・・・・・・・	18
ラーニングイノベーションコンテスト		研究会開催報告(第5回, 第6回, 特集論文	
募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4-5	研究会)・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19-21
研究会報告の電子化のお知らせと年間購読の		支部活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・	22-23
申し込みについて・・・・・・・・・・	6	Facebookページのご案内・・・・・・・・	24
学会誌特集号論文募集・・・・・・・・・・	7-8	会費納入のお願い・・・・・・・・・・	25-26
英文誌論文募集・・・・・・・・・・・・・・・・	9-12	事務局より・・・・・・・・・・・・・・・・	27-28
関西支部第1回若手研究者フォーラム		会員専用ページの案内, 学会誌・研究報告の	
開催案内・・・・・・・・・・・・・・・・	13-14	バックナンバーのご案内, 入会のご案内	
2016 年度研究会開催スケジュール・・・・・・・・	15		
第1回研究会開催案内・・・・・・・・・・	16-17		

●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●

第41回 JSiSE 全国大会のご案内

テーマ： 21 世紀型スキルを支える教育システムの展開

<http://www.jsise.org/taikai/2016/>

- 開催日時： 2016 年 8 月 29 日(月) ～ 8 月 31 日(水)
- 会 場： 帝京大学 宇都宮キャンパス(〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台 1-1)
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会
- 大会日程 (予定)

8 月 29 日 (月)	
午前	プレカンファレンス
昼	開催校挨拶・基調講演・企業セッション
午後	一般セッション (口頭発表およびインタラクティブ発表), 企画セッション
8 月 30 日 (火)	
午前	一般セッション (口頭発表のみ), 企画セッション
昼	特別招待講演 (安西祐一郎先生 (独立行政法人日本学術振興会理事長)) 及び パネル
午後	一般セッション (口頭発表およびインタラクティブ発表), 企画セッション, 学 生研究特別セッション (インタラクティブ発表)
夜	懇親会
8 月 31 日 (水)	
午前	一般セッション (口頭発表のみ), 企画セッション
昼	クロージングセッション・表彰
午後	招待講演 (公開)・公開フォーラム

(*) 大会日程は変更の可能性があります。

■ 大会までのスケジュール

投稿締め切りの後に、参加申し込みが開始されます。発表者には、参加申し込み開始時にメールでご連絡いたします。

- 2016 年 4 月 7 日(木) 講演申込・投稿開始
- 2016 年 5 月 11 日(水) 講演申込締切
- 2016 年 6 月 7 日(火) 投稿締切
- 2016 年 6 月 9 日(木) 参加申込開始
- 2016 年 7 月 7 日(木) [発表者] 参加申込締切
- 2016 年 8 月 2 日(火) [発表者以外] 参加申込締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2016 年 8 月 10 日(水) [発表者以外] 参加申込締切(クレジットカード)

■ 大会参加費

事前申込	当日申込
一般会員：7,560 円 学生会員：3,240 円 非会員（学生以外）：10,800 円 非会員（学生）：5,400 円 論文掲載料：1,000 円（論文一編につき）	一般会員：8,500 円 学生会員：4,000 円 非会員（学生以外）：12,000 円 非会員（学生）：6,500 円
全国大会当日、またはそれ以前に入会手続きを行われる場合は、会員料金でお申し込みいただけます。	
[懇親会費] 一般：5,000 円 学生：2,000 円	[懇親会費] 一般：6,000 円 学生：2,000 円

参加費等はいずれも税込みです。支払いの詳細は、大会 Web サイトをご覧ください。

プレカンファレンスのみに参加する場合は、大会参加登録、および参加費の支払いは不要です。

■ プログラム

プログラムは変更の可能性があります。最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします。

○ 企画セッション

1. ラーニング・アナリティクス（LA）の先進事例と課題
2. 大学間連携に基づく新しい教育・学習環境
3. 身体知・経験知に関わる学習支援技術
4. 新技術による次世代教育・学習環境と教授設計
5. 初等中等教育におけるプログラミング教育
6. 安心・安全な社会に貢献する教育システム
7. 小型ハードウェアと電子工作による教育システム・ツールの開発
8. 医療・看護・福祉領域における ICT 活用教育

■ 講演論文集について

第 37 回大会より講演論文集の印刷を廃止し、CD-ROM、および Web による配布としております。Web 版の講演論文集は、8 月 23 日(火)に大会参加者のみに公開され、2017 年 3 月 1 日(水)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など、詳細は大会 Web サイトをご覧ください。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細は大会 Web サイトをご覧ください。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
 一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会

E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp

ラーニングテクノロジーコンテスト 「ラーニング・イノベーション グランプリ 2016」 応募受付中！

モバイルラーニングコンソシアムは、教育システム情報学会との共催で、教育分野の ICT 活用促進イベント「ラーニングテクノロジー 2016」(2016 年 6 月 8 日(水)～10 日(金))、東京国際フォーラム(東京・有楽町)にて、「ラーニング・イノベーション グランプリ 2016」を開催します。

「ラーニング・イノベーション グランプリ 2016」は、現在の e ラーニングに限らず、クラウドやビッグデータなどテクノロジーと教育を結びつけることによる、これまでにない学習・教育方法やスタイルなど、ラーニングテクノロジーに関する新しいアイデアを広く募集するコンテストです。コンテストでは、高等教育機関(大学・大学院・高等専門学校等)の研究室(チーム)単位でエントリーしていただき、一次・二次の審査を行ったのちに、最終審査を「ラーニングテクノロジー 2016」内で開催します。エントリーしたチームにとっては、これまでの研究成果を広く産業界にアピールする機会であるとともに、産業界の専門家からアドバイスがもらえる絶好のチャンスです。なお、発表者は学生に限らせていただきます。

「ラーニング・イノベーション グランプリ 2016」は、新技術、ハードウェア、ソフトウェア、ビジネスプラン、用途提案のいずれかのカテゴリでエントリーできます。学生個人や研究室単位で、応募内容をまとめたインターネット動画を投稿していただきます。応募された提案内容は、ラーニングテクノロジーとしての斬新さや独創性もさることながら、実用化された場合の有効性や波及効果の観点から審査されます。また、提案内容の説得力を評価するために、発表者の情報収集・活用・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった観点からも審査されます。発表する学生の皆様にとっては、就職、起業の登竜門としても活用することができます。なお、最終審査(6/8東京に)参加できること(代理発表も可、ただし学生に限る。)が応募の条件になっています。

テクノロジーで進化する新しい教育のあり方について、キラリと光る、新しいアイデアをお待ちしていると同時に、プレスの皆様には特に会期中の積極的な取材活動をお願いいたします。



【概要】

- | | |
|----------|---|
| ◆企画名 | 「ラーニング・イノベーション グランプリ 2016」 |
| ◆公式 HP | http://ligp.gingerapp.co.jp/ |
| ◆主催 | モバイルラーニングコンソシアム |
| ◆共催 | 教育システム情報学会／日本イーラーニングコンソシアム (eLC) |
| ◆協力 | 日経 BP 社 |
| ◆応募サイト協力 | 株式会社ジンジャーアップ |

【コンテストの特徴と目的】

これまでの e ラーニングの延長線上に限らず、クラウドやビッグデータなど、来たるべき IoT 時代にふさわしい新しい発想のアイデアを広く募集します。これまで温めてきたアイデアのアウトプットを作れる機会であるとともに、専門家からアドバイスがもらえる絶好のチャンスです。学生個人や研究室単位で、インターネット動画を使って簡単に応募ができます。

情報収集・活用・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、独創性などの観点からも審査され、要素技術の実用化はもちろん、発表する学生の皆様にとっては就職、起業の登竜門としても活用することができます。

【スケジュール】

申込受付	3/1(火)～4/15(金)：「応募フォーム」からお申込ください。
一次審査	4/28(木)
二次審査	5/16(月)
最終審査	6/8(水)

【審査メンバー】

審査員	井手 啓人	：株式会社ジンジャーアップ 代表取締役
	柏原 昭博	：教育システム情報学会 副会長，電気通信大学 教授
	鎌田 純子	：株式会社ボージャー 代表取締役社長
	小林 建太郎	：株式会社デジタル・ナレッジ 執行役員
	長瀬 昭彦	：株式会社 WARK 代表取締役
	藤井 直人	：モバイルラーニングコンソシアム 代表理事， 株式会社ヌーサイト 代表取締役

(敬称略，50 音順)

【アワード】

- ・上位 1 チーム：最優秀ラーニングテクノロジー賞（副賞：10 万円）
- ・上位 2 チーム：優秀ラーニングテクノロジー賞（副賞：5 万円）
- ・一次審査通過研究室は モバイルラーニングコンソシアム 2016 年度会費免除
- ・最終選考研究室（5 件）にはラーニングテクノロジー2016 会場でのプレゼンテーション権を授与
- ・その他，ラーニングテクノロジー関連企業へのプレゼンテーションの場として活用

【参加資格】

高等教育機関（大学・大学院・高等専門学校等）の研究室（チームでのエントリーも可。ただし，発表は学生に限ります。）最終審査（6/8 東京）に参加できる方（代理発表も可。ただし，発表は学生に限ります。）なお，広報活動の一環として，写真・ビデオ撮影ならびに「ラーニングテクノロジー2016」公式サイト，Facebook 等での公開，メディアへの情報配信，取材やインタビューを受けていただく可能性があります。参加申し込みは，この点をご承諾いただいたものとみなしますのでご了承ください。

【最終審査展示会】

イベント名	「ラーニングテクノロジー2016」 (http://learntech.nikkeibp.co.jp/exhibit/)
会期	2016 年 6 月 8 日(水)～10 日(金)
会場	東京国際フォーラム

【お問い合わせ】

モバイルラーニングコンソシアム(担当：秋山)

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町 16-5 新日本橋長岡ビル 2F

問い合わせフォーム <http://www.mobilelearning.jp/FormMail/info/FormMail.html>



研究会報告の電子化のお知らせと年間購読の申込みについて

研究会の研究報告が、2016 年度から電子化されることになりました！

研究報告は、現在 30 巻を数え、これまで教育システム情報学に関して毎年 150 件程度の研究成果(2013 年度 155 件、2014 年度 139 件の発表論文)を掲載し、大変多くの皆様にご購読いただいております。

印刷媒体での研究報告では、研究会当日の閲覧のために持ち運びが必要であったり、保管や管理等が煩雑であったかと思いますが、このたびの電子化によって、オンライン上で研究成果のタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となり、さらに保管などの手間もなく、益々便利に活用できるようになります。

つきましては、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得となっております。

- 年間購読：4,000 円（定例研究会年 6 回，特集研究会 1 回，計 7 回分を含む）
- 当日販売：1 冊 1,000 円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。

すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。自動的に研究報告の電子化に移行させていただきます。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局（secretariat@jsise.org）まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究報告年間購読希望
会員番号（お分かりであれば）：
お名前：
所属：
連絡先 e メールアドレス：
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

教育システム情報学会誌
特集号論文募集
—能動的・自律的な学びを支援する学習環境の設計・構築・実践—

近年、PBL (Project/Problem-based Learning)、反転学習など、学習者の能動的な学習を促すための学習・教育手法やその中での ICT の活用が注目されています。大学だけではなく初等・中等教育機関においても、組織的にこのような学習形態を取り入れる事例も増加しています。また、職場での学びやアルバイト・ボランティアなどインフォーマルな経験を通じた学びの重要性に関する認識も高まっています。

これらの学習・教育は大きな効果が期待される一方で、綿密な教授設計を行わないと、かえって教育効果が低下してしまうことも起こります。また経験を通じた学びは偶発的な要因に左右されるため、教育効果を担保することは非常に困難です。

以上のような状況を踏まえ、今回、「能動的・自律的な学びを支援する学習環境の設計・構築・実践」に関する特集号を企画いたしました。当該分野における新たな教育支援技術、ならびに当該分野の技術を応用した教育実践に関する研究開発の論文を幅広く募りますので、奮ってご投稿ください。

1. 対象分野

「能動的・自律的な学びを支援する学習環境の設計・構築・支援」に関する研究論文を幅広く募集します。キーワードは、次の通りですが、これに限定されるわけではありません。また、「能動的な学び」、「自律的な学び」のいずれかに関わる学習支援環境の研究であれば、本特集号の対象となります。

アクティブラーニング、自己調整学習、Project-Based Learning, Problem-Based Learning, 反転授業、オンデマンド学習、学習空間デザイン、インフォーマルラーニング、経験学習、CMC(Computer-Mediated Communication)、ソーシャルメディア、ソーシャルラーニング、コミュニケーション支援、学習ポートフォリオ、学習ログ収集・分析、協調学習、協働学習、CSCL/S、インストラクショナルデザイン、FD/SD、LMS/CMS、ブレンディッドラーニング、モバイル端末、授業支援、レスポンスシステム、オープンエデュケーション、MOOCS、ピアレビューなど

2. 論文種別

通常と同様、すべての種別（原著論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集します。なお、査読結果により、異なる種別での採録となる場合もあります。また、編集委員会の判断で、一般投稿論文として扱うことになる場合もあります。あらかじめご了承ください。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web ページで確認してください。Web 投稿の際には以下の点にご注意ください。

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください。
- 特集研究会（2016 年 3 月 19 日（土）開催予定）で発表を行った方は、投稿情報入力の際に「事務局への連絡事項」の欄に、特集研究会での発表題目と発表番号を記載してください。
- 英文で投稿される場合は、本会英文誌へ投稿してください。英文誌においても同一特集名の特集号論文として取り扱い、和文誌と同様のスケジュールで査読を行います。

英文誌ホームページ：http://www.jsise.org/journal/journal_en.html

4. スケジュール

- 投稿論文原稿〆切：2016 年 6 月 6 日（月）
- 掲載予定巻号：2017 年 4 月 1 日発行予定の学会誌（Vol.34, No.2）
（採録通知送付予定：2016 年 11 月初旬頃）

5. 特集号編集委員会

委員長：小西達裕（静岡大学）

副委員長：瀬田和久（大阪府立大学）、西野和典（九州工業大学）

幹事：森本康彦（東京学芸大学）、根本淳子（愛媛大学）、笠井俊信（岡山大学）、光原弘幸（徳島大学）、
國宗永佳（信州大学）

委員：学会誌編集委員

6. 問い合わせ

- 特集号全般に関する問い合わせ：

特集号編集委員会副委員長 瀬田和久（大阪府立大学）

E-mail: seta@mi.s.osakafu-u.ac.jp

- Web 投稿に関する問い合わせ：

教育システム情報学会編集事務局

電話：03-5389-6492, E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19 株式会社国際文献社 長澤

教育システム情報学会英文誌論文募集

The Journal of Information and Systems in Education, Vol.15

http://www.jsise.org/journal/journal_en.html

※J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise>

※J-STAGE を通して、Google Scholar, CiNii を初めとする国内外の主要な検索エンジンや学術情報サービスと連携しており、掲載された研究成果は国際的にも認知可能となります。

https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S510_ja.html

教育システム情報学会では、2002 年から毎年定期的に英文誌：The Journal of Information and Systems in Education を発行しています。2011 年からは、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルに移行し、国際的な発信力を強化しています。

このたび、Vol.15 に掲載する論文を募集いたします。教育システム情報に関連した領域全般を対象としておりますので、是非、この機会に多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと思います。

下記の要領に沿って、ご投稿いただきますよう、お願いいたします。

○論文種別：

原著論文(Original Paper)、実践論文(Practical Paper)、
ショートノート(Short Note)、実践速報(Report on Practice)

○投稿締切：

2016 年 5 月 31 日

締切までに投稿いただいたものは、年内に採否を決定し、採録された論文については校正等の手続きを経たうえで順次 Vol.15(2016)もしくは Vol.16(2017)に掲載させていただく予定です。

○投稿要件

- ・論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
- ・寄稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。寄稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。

○原稿執筆要領：

下記の URL を参照してください．

<http://www.jsise.org/journal/pdf/AuthorsInstruction.pdf>

○投稿方法

※電子投稿システムを利用して投稿を行ってください．

- ・ 下記 URL より電子投稿用 Web ページにアクセスしてください．

https://bunken.org/jsise/journal_e/applicant/login.html

- ・ 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行ってください．
- ・ 投稿論文は印刷イメージに近い書式で PDF ファイルとして作成し、アップロードしてください．

※査読・判定結果の言語の希望（英語または日本語）を電子投稿システムの「**Comments to the Editorial Office**」欄に記入してください．希望の記入がない場合、言語は英語になります．なお、希望にそえない場合がありますので、予めご了承ください．

Call for Papers

The Journal of Information and Systems in Education, Vol.15

*It is published as Open Access Journal through J-STAGE.

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise>

*All articles are available through leading search engines and academic information services, such as Google Scholar and CiNii.

https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S510_en.html

JSiSE (Japanese Society for Information and Systems in Education) has published The Journal of Information and Systems in Education annually since 2002. The editorial committee of the journal welcomes submissions of articles for volume 15 of the journal.

Computers and network communications technology, which are the bases of information communication technology (ICT), have infiltrated various aspects of education, including styles of teaching and learning activities. Elementary, higher, enterprise, and lifelong educational institutions are incorporating various kinds of ICT equipment in synchronous and asynchronous learning. Many advanced companies have identified that “e-learning” frameworks are very important to their employees in order to acquire knowledge and skills depending their jobs. In these developing environments for e-learning, learning technology research and contribution are getting increased attention for effective and successful e-learning. Although research in this area has continued for over 50 years, it remains one of the most critical issues for learning activities today.

The Journal of Information and Systems in Education aims to spread outstanding research and practice results in the field of learning technology to professionals all over the world. To contribute the progress of learning technology research and practice, researchers and practitioners are encouraged to submit their advanced results in the topics below.

Scope:

The topic of papers includes but is not limited to:

- Learning technology systems: infrastructure, frameworks, architectures, etc.
- Methodology and pedagogy of e-learning: collective, instructional, collaborative, etc.
- Administration, maintenance, and evaluation of e-learning activities, etc.
- Core technology related to learning technology: database, artificial intelligence, etc.
- Sciences related to learning technology: cognitive science, educational psychology, etc.

Important Date:

Submission Deadline: 31 May, 2016

Instruction for Manuscripts:

Please refer to the “Authors Instruction” in the JSiSE Web site below in preparing manuscripts for submission.

<http://www.jsise.org/journal/pdf/AuthorsInstruction.pdf>

Paper Submission:

Authors must submit their papers through the web submission system at:

https://bunken.org/jsise/journal_e/applicant/login.html

Publication:

For papers submitted before the submission deadline, notification of acceptance or non-acceptance will be sent to the author within this year. Accepted papers will be appeared in Vol. 15(2016) or Vol. 16(2017) after proofreading and so on.

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise/>

Contact Address:

JSiSE International Journal Editorial Office

E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp

教育システム情報学会 関西支部 第1回 若手研究者フォーラム 「英語プレゼンテーションの基礎を学ぶ」 開催案内

この度、パリデジタル大学（フランス）のジョン・オージェリ（John Augeri）氏をお招きし、プレゼンのスキルに関する講演をして頂ける運びとなりました。研究発表における効果的にプレゼンの方法や、視覚に訴えるスライドの作成スキルを獲得できる機会です。多数の方のご参加をお待ちしております。

日 時

平成 28 年 5 月 5 日（木祝）13:30-17:30

場 所

大阪教育大学天王寺キャンパス西館第5講義室

受 付

下記 URL にて事前登録を賜ります。申込の受付締切は、平成 28 年 5 月 2 日（月）17:00 までです。

<http://kokucheese.com/event/index/387225/>

定員 20 名（先着順）



参加費

無料

※ 教育システム情報学会関西支部主催ですが、会員・非会員を問わずどなたでも参加可能です。

※ 若手研究者フォーラムと題していますが、年齢制限ありません。

目 的

- ・聴衆の目を引きつける魅力的なプレゼン資料作成のための技法を学びます。
- ・英語でプレゼンテーションする経験をします。

概 要

PowerPoint によるスライドショーは、学問分野や専門分野では本質的なコミュニケーション媒体で、発表用の共通語とも言われています。しかし、スライドの読みやすさは使用するソフトウェアだけでは決まりません。スライドショーを素晴らしく効果的にするかどうかは、スライドの記述方法、すなわちテキストの量と質、階層的な要素、図表画像やアニメーションの利用法によって異なります。

本講演前半は、色やフォントの適切な利用、技術や強調の優先順位付け、写真要素の表示の統合を通じて、独立した文書としてのスライドショー、または口頭発表の支援としてのスライドショー全体のデザイン方法について紹介します。

後半は実際に参加者の自己紹介や研究内容の概略を簡単に紹介するスライドショーの作成を行います。講演前半で獲得した知識から英語でプレゼンテーションを行い、参加者全体でスライド発表技術の向上を目指します。

なお、当日は、PowerPoint がインストールされた PC (Windows または Mac)をお持ちください。

講師のご紹介

ジョン・オージェリ氏（パリデジタル大学）

略 歴

パリ地域圏（Ile-de-France；イル・ド・フランス）デジタル大学（UNPIdeF）の共同創設者兼プロジェクト・ディレクター。UNPIdeF は 2006 年に設立され、2014 年現在 17 の大学を含む 37 組織を束ねたコンソーシアムであり、パリ地域圏の 50 万人の学生と 5 万人を越える高等教育機関のスタッフに教材やサービスを提供している。同氏は、UNPIdeF の教育訓練活動を統括する立場であり、フランスの高等教育・研究省（日本の文部科学省に相当）の専門委員としても 2006 年から活躍中である。

備 考

本講演は英語にて行われます。専門の通訳はおりません。また、後半のワークショップも原則英語を用いて行います。視覚効果に訴えかけるプレゼンテーションの作成と英語スキル獲得のためにも英語プレゼン未経験者を歓迎します！

備 考

問い合わせ先：

大阪教育大学 情報処理センター 尾崎拓郎

072-978-3932, ozaki@cc.osaka-kyoiku.ac.jp



2016 年度 研究会開催スケジュール

第 1 回研究会（担当：櫻井良樹，仲林清，松居辰則，北村士朗， 真嶋由貴恵，加藤泰久，森本容介）
◆ テーマ：学習環境デザインと Learning Analytics・学習サービス／ 医療・看護・福祉における先進的 ICT 利用／一般 ◆ 日 程：5 月 1 4 日（土） ◆ 場 所：放送大学 ※ 学習分析学会（JASLA）研究会との合同開催
第 2 回研究会（担当：小松川浩，野崎造成，布施 泉，不破 泰，金子大輔）
◆ テーマ：ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般 ◆ 日 程：7 月 9 日（土） ◆ 場 所：千歳科学技術大学
第 3 回研究会（担当：小西達裕，林 敏浩，安間文彦）
◆ テーマ：ICT を利活用した高等教育機関の教育連携／一般 ◆ 日 程：1 0 月 1 日 ◆ 場 所：香川大学 幸町キャンパス
第 4 回研究会（担当：小尻智子，曾我真人，長谷川忍，柏原昭博）
◆ テーマ：身体知・経験知に関わる学習支援／一般 ◆ 日 程：1 1 月 1 2 日（土） ◆ 場 所：和歌山大学
第 5 回研究会（担当：光原弘幸，佐々木整，三石 大）
◆ テーマ：新技術による教育・学習環境の構築と教授設計／一般 ◆ 日 程：1 月 7 日（土） ◆ 場 所：愛媛大学
第 6 回研究会（担当：西野和典，鷹岡亮，浅羽修丈，西端律子）
◆ テーマ：ICT を活用したアクティブ・ラーニング／新教育課程／一般 ◆ 日 程：3 月 1 8 日（土） ◆ 場 所：北九州市立大学 ※ 特集研究会と同時開催

2016 年度第 1 回研究会 開催案内

★★JSiSE / JASLA 合同企画（パネルディスカッション）も開催★★

教育システム情報学会

担当：櫻井良樹，仲林清，松居辰則，北村士朗，真嶋由貴恵，加藤泰久，森本容介（研究会委員会）

■テーマ：

学習環境デザインと Learning Analytics・学習サービス／医療・看護・福祉における先進的 ICT 利用／一般

■開催日時：2016 年 5 月 14 日（土）

■会 場：放送大学（千葉市美浜区若葉 2-11）

総武線幕張駅，京成千葉線幕張駅，徒歩 15 分 または京葉線海浜幕張駅下車 徒歩 15 分

<http://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/access.html>

※学習分析学会(JASLA)研究会と合同開催です。

■主 旨：

本年度第 1 回研究会は，「学習環境デザインと Learning Analytics・学習サービス／医療・看護・福祉における先進的 ICT 利用／一般」のテーマで実施いたします。

「学習環境デザインと Learning Analytics・学習サービス」に関しては，企業や大学における人材開発や組織マネジメントとの連携，学習コンテンツ設計，インストラクショナルデザイン，品質評価，学習者支援，ブレンデッドラーニング，インフォーマルラーニングなどの方法論，e ラーニングツール，システム，実践環境に関する提案・開発・応用など幅広いトピックスを包含しています。本研究会では，特に Learning Analytics の理論・技術・実践に関し，その可能性や課題について議論したいと思います。さらに，学習・教育を「サービス」の観点から捉え直し，動的かつ非構造的な知識や技術を適応的・持続的に学ぶための学習環境デザイン，長期的な視点からの学習評価法についても本学会の新しいトピックスとして議論したいと思います。

「医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育」に関して，これまで，人を対象とするこの分野にはコンピュータなどの ICT の活用はなじまないとされてきました。しかし一方では，マルチメディアを活用した e ラーニングが多くの医療系大学や病院などに導入され，ICT を活用して膨大な知識の効率的な学習，新しい知識の定着，医療・看護技術の習得などで，高い学習効果が得られたことが報告されています。また，医療人育成のために体系化された教育プログラムにこそ e ラーニングや ICT の活用が効果的である，との声も聞かれるようになってきました。そこで本研究会では，医療・看護・福祉分野において求められている高い実践能力をもつ人材の育成やナレッジマネジメント，学習者支援，学習コンテンツの設計，インストラクショナルデザイン，医療サービスの質保証ならびに質評価，e ラーニング教材制作，臨床や教育機関での実践・運営環境，著作権処理に関する様々なトピックを扱い，この分野に

おける専門職教育に必要な知識や技能を習得するための ICT 活用教育方法について、議論を進めていきたいと思います。

■JSiSE / JASLA 合同企画（詳細計画中）

パネルディスカッション 「Learning Analytics の発展に向けた取組みと課題」

パネリスト 仲林 清 （JSiSE 会長）

田村 恭久 （JASLA 理事長）

モデレータ 松居 辰朗 （早稲田大学）

まず、両学会の代表からそれぞれの学会がめざすところ（研究領域とその成果活用）に対する LA の位置づけを概説していただきます。次に、LA の可能性と課題に関して参加者とともに議論します。最後に、その課題解決に向けた取組みを模索します。

■懇親会

研究会終了後、懇親会を開催する予定です。なお、会費は 4,000 円～5,000 円の予定です。

■お問い合わせ先：

熊本大学 社会文化科学研究科 教授システム専攻 櫻井 良樹

E-mail : y-sakurai@mwd.biglobe.ne.jp



2015 年度 学生研究発表会 開催報告

人材育成委員会

平成 27 年度 JSiSE 学生研究発表会が例年同様に 2 月末から 3 月上旬にかけて、北海道、北信越、東海、関西、中国、四国、九州、沖縄の 8 地区で開催されました。発表件数は 90 件（前年度より 2 件減）、来場者数は 304 名（前年度より 67 名増）であり、発表総件数は少し減りましたが、各会場とも盛況な研究発表会となりました。優秀な発表については、優秀発表賞および優秀ポスター発表賞として各地区で表彰されました。表彰情報については、学会 Web サイトで公開しますのでご覧ください。

開催地区 開催都市	開催場所 実行委員長	開催日 2016 年	発表件数	来場者数
北海道 千歳市	千歳科学技術大学 千歳科学技術大学 小松川浩	3 月 5 日（土）	8	21
北信越 富山市	富山大学 信州大学 新村正明	2 月 27 日（土）	6	29
東海 名古屋市	名城大学名駅サテライト 南山大学 吉根勝美	2 月 29 日（月）	13	42
関西 大阪市	関西学院大学大阪梅田キャンパス 大阪工業大学 中西通雄	3 月 4 日（金）	21	74
中国 広島市	広島市立大学サテライトキャンパス 広島市立大学 岡本勝	2 月 29 日（月）	17	38
四国 高松市	香川大学 香川大学幸町キャンパス 香川大学 林敏浩	3 月 4 日（金）	8	54
九州 長崎市	長崎大学文教キャンパス 日本文理大学 坪倉篤志	3 月 1 日（火）	8	25
沖縄 那覇市	琉球大学総合情報処理センター 琉球大学 谷口 祐治	3 月 4 日（金）	9	21



2015 年度第 5 回研究会 開催報告

■テーマ：「身体知・スキル支援／一般」

■開催日時：2016 年 1 月 30 日(土)

■会場：関西大学千里山キャンパス

■担当：研究会委員 柏原昭博，小尻智子，長谷川忍，曾我真人

■会場担当：小尻智子

■発表件数：18 件 / 参加者数 93 名

■概要：

2016 年 1 月 30 日（土）に関西大学千里山キャンパスにて，2015 年度第 5 回研究会を開催しました．本研究会は電子情報通信学会教育工学研究会との並列開催であり，両研究会ともに同じテーマ「身体知・スキル支援／一般」での実施となりました．

教育システム情報学会では全部で 18 件の発表が 2 セッション並列で開催されました．マッサージや縄跳びなどの身体スキルの支援だけでなく，プログラミング教育や授業評価に関する研究成果など，教育・学習支援に係る多くの報告がなされました．

また，電子情報通信学会教育工学研究会と共通の招待講演セッションでは，名古屋産業科学研の渡辺豊英教授に，教師・学修支援の特徴に関するご講演いただきました．

両研究会あわせて 93 名もの方にご来場いただき，セッション中だけでなく懇親会の間でも活発な議論がなされ，大変有意義な会となりました．



2015 年度第 6 回研究会 開催報告

■共催：東京工芸大学

■テーマ：21 世紀型能力と情報教育/一般

■開催日：2016 年 3 月 19 日(土)

■開催場所：東京工芸大学中野キャンパス

■担当：西野和典，西端律子，浅羽修丈，鷹岡亮

■会場担当：東本崇仁(東京工芸大学)

■概要

2016年3月19日(土)に、東京工芸大学中野キャンパスを会場として、特集論文研究会と合同で、第6回研究会を開催しました。今回の研究会テーマは「21世紀型能力と情報教育/一般」で、21件のご発表がありました。

具体的には、情報リテラシー教育、情報系実習授業におけるTAの資質、企業インターンシップの単位認定、情報教育において育成すべき資質・能力、キー・コンピテンシー尺度の開発、教材共有ネットワークサイトのクラウド移行、e-Learning におけるドロップアウト検知や成績不振者の発見手法、機械学習を活用したアンケート自由回答欄評価、研究活動支援、遠隔学習の効果、アルゴリズム学習、技術文書作成教育、IoT時代の授業開発・実践、数学能力と論理的思考力、計算文章題の問題表現、協調学習、教材コンテンツ開発、ツール開発など幅広い研究発表が2つの会場で行われ、発表後には熱い質疑応答も展開される研究会となりました。研究会参加者は特集論文研究会とあわせて111名（受付数：第6回研究会74名、特集論文研究会82名）、研究会後には特集論文研究会と合同懇親会も行われ、32名の参加者が積極的に意見交換、議論を交わしていました。

次年度(平成28年度)の第6回研究会は、「ICTを活用したアクティブ・ラーニング／新教育課程／一般」をテーマに開催する予定です。多くの皆さまのご発表をお待ちしております。

最後に、第6回研究会でご発表、ご参加頂きました皆さま、座長をお引き受け頂いた先生方、会場校として準備・運営を行って頂きました東本先生をはじめ東京工芸大学スタッフの皆さま、そして共催頂きました東京工芸大学さまにこの場をお借りしてお礼申し上げます。



2015 年度特集論文研究会 開催報告

■テーマ：能動的・自律的な学びを支援する学習環境の設計・構築・実践

■開催日：2016年3月19日（土）

■会 場：東京工芸大学中野キャンパス（東京都中野区本町2丁目9-5）

■担当：西野和典（研究会委員会/学会誌編集委員会） / 笠井俊信（編集委員会・特集幹事）

國宗永佳（編集委員会・特集幹事） / 光原弘幸（編集委員会・特集幹事）

根本淳子（編集委員会・特集幹事） / 森本康彦（編集委員会・特集幹事）

■概 要：

特集論文研究会は、2016年3月19日に、東京工芸大学中野キャンパスにおいて第6回研究会（テーマ：21世紀型能力と情報教育/一般）と共同開催されました。近年、PBL（Project/Problem-based Learning）、反転学習など、学習者の能動的な学習を促すための学習・教育手法やその中でのICTの活用が注目されています。そこで、今回は「能動的・自律的な学びを支援する学習環境の設計・構築・実践」に関する研究開発をテーマにして発表を募集いたしました。結果として、34件（うち22件が後述の「コメント希望」）の発表が行われ、82名の方にご参加いただき、各会場とも熱心に議論が行われました。また、並行して開催された第6回研究会とも相互に参加が自由となっており、2つの研究会を合わせると111名の方が参加されました。

この特集論文研究会は他の研究会とは異なり、2017年4月発行の学会誌特集号への投稿を促進することを目的とし、前年までと同様に、特集号と同じテーマで発表を募集すると共に、希望者には研究会委員会と編集委員会からのコメントの提供を行いました。このコメントは発表後に手渡されました。

また、本特集論文研究会のもう一つの特徴は十分な質疑応答時間の確保です。前述の研究会委員、編集委員からのコメントだけではなく、研究会当日に参加者から様々な質問やコメントを受けることによって、研究を発展させて、よりよい論文を執筆していただくことを目指しています。各セッションでは通常よりも長いディスカッションの時間を十分に利用して活発な議論が展開されました。各発表者にとっては特集号への投稿の弾みになったと思われます。

北 信 越 支 部 よ り 活 動 報 告

[若手研究者育成ワークショップ]

■日 時：2016 年 2 月 26 日（金）

■会 場：富山大学

■概 要：

北信越支部 学生研究発表会に先立ち、その前日に、若手研究者育成ワークショップ「研究成果を磨く」を開催しました。このイベントは主に博士課程学生を対象に、研究成果を磨き上げ、論文投稿を促進するために北信越支部が企画したもので、今回で2回目の開催となります。

ワークショップでは、まず JSiSE 仲林会長より、「研究論文のまとめ方と査読のポイント」のご講演をいただきました。研究における問題提起と問題を解決するための仮説設定の重要性が説かれるとともに、学術論文の投稿から採録に至るプロセス、査読者からみた論文の評価ポイントなど、示唆深いお話をいただきました。特に、仲林先生ご自身の最近採録された論文を実例に、研究会発表から論文投稿・採録に至るまでのプロセスを説明いただき、理解の深まる内容でした。

このあと、博士課程学生 2 名（長岡技科大 斯日貢さん、信州大 戸井英晃さん）、指定討論者（千葉工業大 仲林先生、長岡技科大 北島先生）および参加者による研究討論会を行いました。ここでは、博士課程学生が各自の研究概要について発表を行った後、指定討論者・参加者から多数のコメント・質疑が寄せられ、研究の位置づけの明確化や研究の発展可能性について考えていただく機会となりました。特に、両発表者とも論文投稿を前提とした研究発表を行っており、採録を目指すためには何が必要かなど、非常に実践的な内容となったうえ、発表者＝フロア間の応答だけでなく、フロア内でも議論があり、活発な意見交換が行われました。

この企画は、いままでは北信越支部の学生を対象としておりましたが、来年度は、全国の博士課程学生を対象に実施することを予定しております。みなさまのご参加をお待ちしております。

関西支部より活動報告

2016年2月27日（土）に、近畿大学東大阪キャンパスにて「機械学習勉強会」を開催しました。技術コミュニティである GDG 京都（Google Developer Group 京都）との合同開催であり、前半はアカデミックセッション（教育システム情報学会関西支部主催）、後半は GDG セッションとした2部形式となりました。

【アカデミックセッション】

1. 機械学習について(仮題) 波部先生(近畿大学理工学部)
2. 機械学習への教育への応用の可能性(仮題) ... 多田先生(近畿大学理工学部)

【GDG セッション】

3. Google の提供する機械学習技術の利用方法と応用に関する事例紹介とトーク

- ・TensorFlow を使った機械学習ことはじめ ... 上野山さん@GDG 京都
- ・Google Prediction API と Cloud Vision の紹介... おちさん@GDG 京都
- ・TensorFlow を趣味に活かしてみる(仮題) ... 有山さん@有限会社シーリス代表

当初、定員 50 名の募集をかけましたが、公開からわずか2日で申し込みが満員となりました。最終的に 74 名の参加者を受け付けました。「機械学習」に関する世間の関心の高さを感じます。





Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています。本ページでは、

- ・ 論文・発表募集
- ・ 本学会に関連するイベントの情報

などを、いち早くお届けします。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

◇ 2016 年 3 月 28 日現在,いいね 197 件

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

facebook アカウント登録

メールアドレスまたは携帯番号 パスワード

ログイン

ログインしたままにする パスワードを忘れた場合はこちら

Facebookページを作成

最近

2015年

2014年

1974年

教育システム情報学会
さんはFacebookを利用しています。
Facebookに登録して、教育システム情報学会さんや他の友達と交流を深めましょう。

アカウント登録 ログイン

JSiSE
一般社団法人
教育システム情報学会

教育システム情報学会
団体

タイムライン 基本データ 写真 いいね! 動画

ユーザー

いいね! 175件

情報

東京都新宿区
山吹町1358-5 アカデミーセンター

JSiSE 教育システム情報学会
15時間前

2016年度 全国大会 企画セッション テーマ募集のご案内
教育システム情報学会 全国大会委員会
委員長 小松川 浩... もっと見る

藤岡 直さん, Masaru Okamotoさん, 簗谷 隆弘さん, 他7人が「いいね」

人気のコメント



会費納入のお願い

2016 年度年会費納入についてのお願いです。学会の活動は皆様の会費で支えられていますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

- 「クレジット決済」、「コンビニ決済」をご希望の方は、下記のマイページよりお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託
をしております、株式会社国際文献社のものになります。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行(金融機関コード：9900)

店名：〇一九 店 (ゼロイチキョウ店) 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱東京 UFJ 銀行(金融機関コード：0005)

店名：上新庄支店 (カミシンジョウ支店)

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行(金融機関コード：0001)

店名：茨木 支店 (イバラキ支店)

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。

【2015 年度あるいはそれ以前の会費を支払われていない方】

マイページでは、すべての会費が合算された金額が請求されます。先に 2015 年度分のみのお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、定款の定めに従って除名手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-5937-5816 Fax:03-3368-2822 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものになります。

■会員専用ページでは、以下のことが可能になります。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡をお願い致します。

ログインには、名簿システム（2015 年 1 月にログイン）でご利用いただいた ID とパスワードが必要となります。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



学会誌・研究会報告のバックナンバーのお求めは

(株)毎日学術フォーラムまでお申し込みください。

株式会社 毎日学術フォーラム

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 2 階

TEL : 03-6267-4550 / FAX : 03-6267-4555

Mail : maf-sales@mycom.co.jp / URL : <http://maf.mycom.co.jp>

■JSiSE 会員の方で「研究報告」の年間購読をご希望の方は、事務局分室までご連絡ください。

この機会にぜひ年間購読されますようおすすめいたします。

■年間購読料 4,000 円 / 年 6 回発行 <送料込>

入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。後日、事務局から入会金や年会費のお支払い方法などをメールにてご案内いたします。教育分野における情報通信技術の利用に関する学術研究に興味のあるお知り合いの方がおられましたら、是非ご紹介をいただきますようお願い申し上げます。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、
入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。